

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報の発表

病虫害発生予察特殊報第 1 号を下記のとおり発表したもので送付します。

平成 29 年度病虫害発生予察特殊報第 1 号

平成 29 年 6 月 19 日

岡 山 県

1. 病虫害名 トウガラシ類炭疽病
2. 病原菌名 *Colletotrichum scovillei* Damm, P.F. Cannon & Crous
3. 発生作物名 トウガラシ類
4. 特殊報の内容 岡山県のトウガラシ類において新たな菌によるトウガラシ類炭疽病の初発生を確認
5. 発生確認月日 平成 28 年 8 月 24 日
6. 発生確認場所 岡山県中部
7. 発生の経緯  
平成 28 年 8 月に岡山県中部の露地栽培のハナトウガラシ（1 圃場）で、果実に水浸状の黒い斑点が形成され、やがて拡大してへこむ症状が発生した（図 1）。被害株の果実には、鮭肉色の分生子塊が多数形成されており（図 1）、県農業研究所において顕微鏡観察による形態観察を行ったところ、*Colletotrichum* 属の分生子が確認された（図 2）。罹病果実からの分離菌株をハナトウガラシ及びピーマンの果実に接種したところ、いずれにおいても原病徴が再現され（図 3）、症状部からは接種菌と同じ病原菌が再分離された。分離菌株について、神戸植物防疫所に遺伝子診断を依頼した結果、*Colletotrichum scovillei*（旧分類：*C. acutatum*）と一致し、本病害は従来のトウガラシ類炭疽病の原因菌（*C. gloeosporioides* や *C. capsici*）とは異なる菌であることが判明した。  
*C. scovillei* によるトウガラシ類炭疽病は、県内で初確認である。
8. 他県での発生状況等  
*C. scovillei* によるトウガラシ類炭疽病は、ピーマンにおいて平成 17 年に島根県で初確認され、その後兵庫県、福島県、千葉県、山口県、熊本県で報告されている。本病のハナトウガラシにおける、他県での発生報告はない。
9. 本病の特徴
  - (1) 病徴  
果実では、はじめは水浸状の小斑点を生じ、のちに褐変してへこみ、拡大して同心円状の輪紋を形成する。へこんだ病斑の表面には鮭肉色の分生子塊を同心円状に生ずる（図 1）。
  - (2) 伝染経路  
本病原菌は、前年の罹病植物の残渣とともに土壤中越冬し、第一次伝染源となるほか、種子伝染もする。土壌や罹病植物上にできた分生子は、降雨やかん水時のはね上がり等によって飛散して周囲に 2 次伝染する。
10. 防除対策及び参考事項
  - (1) 発病株は見つけ次第抜き取り埋没処分する。

- (2) 健全な株から採種した種子を用いる。
- (3) 雨除け栽培あるいはマルチ被覆等により降雨による土壌からのはね上りを防ぐ。
- (4) ハナトウガラシはピーマンと同じトウガラシ類に含まれるので、本病はピーマンにも発生するおそれがある（本県では未確認）。



図1 被害株の果実の症状（矢印：炭疽病斑の中心に鮭肉色の分生子塊が形成されている）



図2 果実に形成された分生子（バー：100 μm） 図3 ピーマン上での症状（再現試験）

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。  
アドレスは、[http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec\\_sec1=239](http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239)

